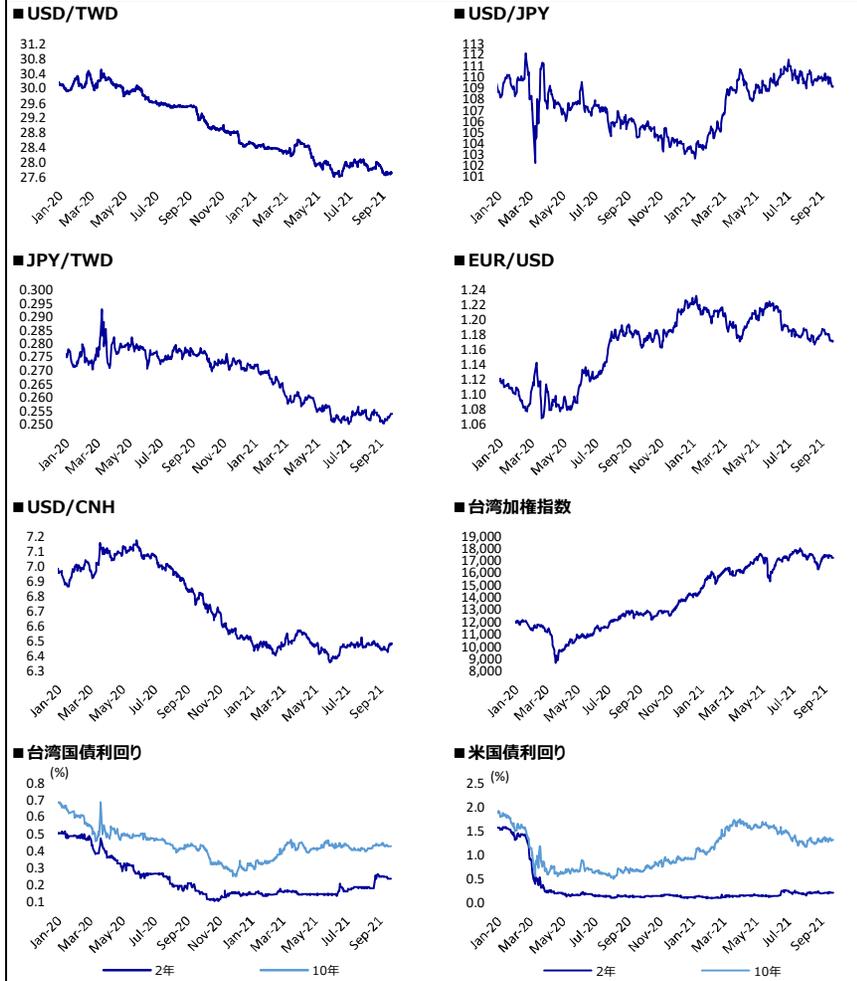


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルはレンジで推移。週初9/13はギャップアップして27.750でオープン後、すぐに27.66付近まで戻したが、外資の海外への送金が入り、27.72付近まで上昇。9/14も輸出企業のドル売りから27.66付近まで下落したが外資の海外送金により27.70台に戻された。9/15は高いが少ない中、台湾ドルが買われると台湾ドル高が進み、一時27.652まで下落したが一巡後は27.70付近に戻した。9/16は中秋節を前に輸出企業や外国人投資家が調整に入ったことで27.65付近まで下落したが、台湾ドル買いが一巡した後は、27.68付近で推移。9/17も中秋節を前に輸出企業の調整から27.67付近まで下落したが27.7台に戻される展開となった。最終的には先週比0.1%ドル高台湾ドル安の27.736で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は44.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初9/13は109.89でオープン後、特段材料のない中、109円台後半の狭いレンジで推移していたが、日経平均が堅調に推移する中、ドル円も上昇し一時110.16に。その後も材料はなく、110円を挟んでレンジで推移。9/14は米CPIが発表されると、予想を下回ったことから米金利の低下につられてドル円も下落し、109円台半ばで推移。9/15は中国の小売売上高等経済指標が予想を下回ると中国経済減速への警戒感からリスクオフの円買いとなり、一時109.11まで下落。9/16は8月小売売上高と9月フィラデルフィア連銀景況指数が予想を大幅に上回ったことが好感され、米金利が上昇するとともにドル買いが強まり、109円台後半まで上昇。9/17は米金利の上昇から110円台を回復するも米株式相場が軟調に推移する中、ドル円の値は重く、最終的に先週比0.1%ドル高円安の109.98で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.720-27.850
中秋節の台湾休場の間に中国市場の信用不安が高まっているが、今週は信用不安の要因となった中国不動産大手の社債の利払い期日を控えており、中国当局の対応も注目となっている。リスクオフからの台湾ドル安の流れとなりやすであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：108.80-111.20
今週はFOMCを控えているが、市場予想の通り11月テーパリング開始となれば、サプライズはなく、レンジでの相場の推移となるであろう。しかし、中国市場での信用不安がさらに高まった場合、リスクオフの流れには警戒したい。

今週の予定

9/20 (MON)	台湾休場、日本休場
9/21 (TUE)	台湾休場
9/22 (WED)	台湾8月失業率、日銀金融政策決定会合、米FOMC
9/23 (THU)	台湾金融政策決定会合、米8月シカゴ連銀全米活動指数
9/24 (FRI)	台湾8月輸出受注、米8月新築住宅販売件数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。